



Bowed Strings Syllabus

2020-2023

弦樂器受檢要項（參考抄訳）

2020-2023 弦楽器受検要項 (参考抄訳)

ABRSM シラバスについて

ABRSM 弦楽器実技検定

プレップ テスト

イニシャルー8

弦楽器検定の規定

スケール・アルペジオのパターン

スケール・アルペジオの速度

初見演奏の範囲

ヴァイオリン

ヴィオラ

チェロ

コントラバス

オーラルテスト

(訳註：以下の項目については、省略)

ディプロマ

ARSM

DipARSM, LRSM, FRSM

その他の検定

理論検定

プラクティカル ミュージシャンシップ

採点基準

曲目シート

ABRSM シラバスについて (参考訳)

長い間 ABRSM は、音楽への情熱を基に指導者や学習者を全力でサポートして参りました。その中の一つがグレード検定です。ここにおいては厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽における達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

グレード検定は楽器だけではなく、声楽、ジャズ、音楽理論そしてプラクティカル・ミュージシャンシップなど、多岐に渡って行われます。シラバスは基本的な音楽スキル—聴く力、演奏力、読む力、書く力から、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることができます。

検定は、学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず、学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることができます。更に検定で音楽の目標に達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSM は、学習者にとって、この検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は、親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮できるよう努めます。また、検定員は明快で分かり易い準に基づいて、信頼できる客観的且つ一貫性のある評価を行います。最後に受検者は価値のあるフィードバックとなる採点用紙を受け取り、全ての合格者には、合格証書が渡されます。

私どもは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みとなり、役にたつものとなるよう願っております。皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

詳しくは下記の HP をご覧ください。

www.abrsm.org

弦楽器検定の規定

この要項(シラバス)は、指導者、受検者、保護者の、ABRSM 弦楽器検定受検準備のために書かれています。

各楽器の課題曲は、グレード別に本文に掲載されています。その他の課題については各科目の項をご覧ください。(要項の科目別の有効期限についても)

弦楽器実技検定の科目ではありませんが、理論検定と、プラクティカル ミュージシャンシップの要項も記載され、(当和訳においては省略)オールラウンドな音楽力を目指します。又、どちらかのグレード5以上の取得は実技検定グレード6以上を受験資格として、必要です。

このシラバスと共に、大切な資料である ABRSM 検定規定集も毎年発行され、英国公式サイトからダウンロードできます。*Information & Regulations*, [abrsm.org/examregulations](https://www.abrsm.org/examregulations)

2020-2023 年 新シラバス

このシラバスは、2020年1月から2023年12月までに行われる実技検定において有効です。

新しくプレ-グレード1のレベルである、**イニシャル グレード**が、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ及びダブルベースの各楽器に導入されました。内容は各グレードと同様(課題曲3曲、スケール課題、初見演奏及びオーラル テスト)です。

この新しいシラバスには、上記4楽器の新しい課題曲のリストが掲載されています。テクニック課題(スケール、アルペジオ等)及び初見演奏には、**変更はありません**。

その他の変更点としては：

- ・各リストの課題曲が10曲となり、指導者、受検者の選択肢が増えています。
- ・受検者の演奏力と技術のバランスが重視され、音楽の特徴が、より重点的に考慮された課題曲リストとなっています。

リスト A: 技術力を要する、速めのテンポの曲

リスト B: 叙情的な、表現力を要する曲

リスト C: 伝統、様式、特徴において多岐に渡る選曲

- ・イニシャル〜グレード3までは、弦楽器による伴奏も可能となりました。
- ・低いグレードの課題曲には、弦楽器アンサンブルなどに役立つように他の弦楽器と共通のものが含まれています。

- ・初見演奏における、調の範囲が、より見やすい形で提示されています。
- ・プレップテスト(主に、ヴァイオリンとチェロ)や、ディプロマについての情報が含まれます。

移行期間について

移行期間として、2020年の12月まで前年度の要項に基づく課題曲での受検が認められています。移行期間についての詳細は以下のサイトを参照のこと。www.abrsm.org/overlap

(テクニック課題等には移行期間はありません。)

課題曲は、同じシラバスから選択すること。新旧2つのシラバスを同時に使用することはできません。

弦楽器検定の詳細

楽器

受検はアコースティックの楽器に限ります(電子楽器では受検できません)。

チューニング

グレード1~5までは検定前に指導者、或いは伴奏者がチューニング(調弦)しても良いことになっています。グレード6以上は受検者自身で行います。検定員は、いかなる場合でもチューニングをすることはありません。

譜面台

検定会場には譜面台の用意がありますが、必要に応じて、受検者は譜面台などを持ち込むことができます。

課題曲の選択

リストA,B,Cから各々一曲選択された課題曲は、コントラストがつき、且つバランスのとれた構成となるように配慮してください。

伴奏

練習曲や、無伴奏曲として出版された場合(SOLOの記載有)を除き、演奏には全て伴奏者が必要です。伴奏者は伴奏する場合のみ受検会場に入ることが出来ます。受検者の指導者は、伴奏者になれますが、検定員はいかなる場合でも伴奏することはありません。

イニシャル～グレード3においては、弦楽器での伴奏（DUETの表示有り）が可能、更に **PF/VN**, **PF/VA**, **PF/VC** 又は **PF/DB** の記載は、ピアノ/弦楽器どちらかでの伴奏が可能です。

楽譜と出版社：編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。（ダウンロードされたものも可）なお楽譜の購入については、英国本部のHPを参照ください。 www.abrsm.org/shop.

トゥッティとカデンツ

コンチェルトやそれに類する楽章を演奏する受検者は、あらかじめ伴奏者との編曲により、オーケストラのトゥッティ部分を除いてください。また、カデンツ部分は要項に指示されている場合を除き、演奏されません。

指使いとボーイング

受検者は指定された指使いやボーイングにこだわる必要はありません。グレード1と2のヴァイオリン、ヴィオラの受検者は第一ポジションのみでの演奏も可（スケール、アルペジオの指定された場合を除く）。チェロの場合は簡単なポジション移動もあります。グレード4からは、受検者はその音楽の形式に応じたポジション移動が求められます。

ヴィブラート

グレード5のレベルまでに、受検者はある程度ヴィブラート技術の習得が求められます。

スケールとアルペジオ

受検者は、スケール/アルペジオの各グレードにおける出題範囲の調で、少なくとも一つの演奏法（レガート又はノンレガート）で弾くことを求められます。検定員は次の事項のみ指示します。

- ・調（グレード6-8での短音階の別一和声的又は旋律的）
- ・ノンレガート又はレガート（グレード1のアルペジオはノンレガートのみ）

全てのスケール・アルペジオは

- ・暗譜で弾くこと
- ・その調の最も低い主音/開始音からはじめること
- ・指定された範囲の上行および下行形を弾くこと。

レガート奏ではボーイングによりテンポが決まるので気をつけること。ノンレガート奏は、弓の半分以下の部分で、軽快に弾くこと。基準の速度については、英文16-19ページを参照してください。

指使いは、それが音楽的に有効で且つ、理にかなっていればテキストの例と違って受け入れられます。

長調、短調のスケール(及び6度、オクターブの重音奏)において、受検者は2種類のリズムパターンのうち、どちらかを選ぶことができます。アルペジオ、属七、減七の和音は基本形のみ、又、すべての属七の和音は主和音で終わります。

パターンの詳しい例は、英文14-15ページの譜例をご覧ください。

初見演奏

初見演奏は伴奏なしで行われます。受検者は約30秒の予見時間が与えられ、その間、試奏して良いことになっています。初見演奏の概要はグレード毎に、この要項に書かれています。指示された範囲はそれ以降の上位のグレードにも適用されます。又、各グレード対応の初見問題集も出版されています。

演奏とその評価

演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけでなく、よい音程、さまざまな音色の使い分け、ボーイング、指使い、演奏姿勢、テンポ設定、細かな表情の変化、フレーズやアクセントなどが評価の対象になります。評価についての詳しい内容は巻末の評価一覧を参照のこと。

検定の配点

全てのグレードの配点は以下の通りです。

スケール・アルペジオ／分散和音	21
課題曲 1	30
課題曲 2	30
課題曲 3	30
初見演奏	21
オーラル・テスト	<u>18</u>
総合点	150点

評点基準：150点のうち100点(全体の66%)が必要です。120点以上でメリット(優)、130点以上でディステインクション(秀)の評価が与えられます。又、各項目において必ずしも66%を獲得しなければならない、というわけではありません。

スケール・アルペジオのパターン (本文12-13ページ)

これらの譜例は、この冊子にあるパターンを明確化したものです。それぞれのグレード、楽器に合わせて、参照してください。

スケールのリズムパターン

全てのグレードにおいて、受検者は長調、短調ともに、二つのリズムパターン（同じ長さの音符又は、主音を長く弾く）のうち一つを選ぶことができます。（詳しくは譜例参照）ただし、半音音階は同じ長さの音で弾くこと

受検にあたって

この項は、音楽検定規定集からの抜粋です。併せて参照下さい。

- a 受検者は、どの科目からでも受検することができます(伴奏付きの曲は続けて演奏されるのが望ましい)。
- b 指導者および受検者は(本文 6-7 ページに記載されている)規定をよく読み、特に曲目リストについては注意を払うこと。一曲とは曲目リストの番号にある曲全体を指します。(ほかに指定されている場合を除いては) したがって、一曲は数楽章にわたる場合や曲集の中の数曲をさす場合もあります。
- c 曲または楽章の設定テンポは要項の中に適宜、(時にはタイトルとして)指示されています。曲中又は楽章内に 2 つ以上のテンポ指示がある場合でも、(特別の指示がある場合を除き)曲全体が演奏されなければなりません。
- d 要項を逸脱した受検者には（曲目リスト以外の曲を演奏したり、曲を完奏できなかったりした場合など）ペナルティーが科せられるか、場合によっては失格となります。
- e ABRSM では課題曲の移行期間を設けています。これにより前年度の課題曲で受検することも可能です。(但し混在しての受検は不可)。
- f 編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。
- g 受検者は指示された楽語や記号(特に編纂されている場合)一すなわち、速度記号、指使い、フレーズ、装飾音のつけ方など一については選択することができます。このような指示がない場合は受検者自らの音楽性に基いて選択がなされます。
- h 受検者は *da capo* と *dal segno* に気をつけること。ただし、特に指示がないかぎり 2.3 小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。
- i 暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者でも必ず楽譜をご用意ください。
- j 検定員の判断で、演奏を途中でとめる場合もあります。
- k 英国の法の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合(譜めくりが極端に困難など)を除きコピーをとる前に申請が必要です。この事項において受検者に法を遵守させるのは受検申請者の責任です。万が一検定において違法なコピーが行われていることが発覚した場合、ABRSM は検定結果を保留する権利を有するものとします。

オーラル・テスト：全ての実技検定において実施されます

「聴くこと」は、良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、「内なる耳」で、聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができるのです。レッスンの中で、このようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル・テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつくのです。

オーラル・テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価

いくつかのテストでは、必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は、検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは、評価に影響を与える場合もあります。

聴音例題集

オーラル・テストの実例は、「聴音例題集」及び、「聴音指導書」を参考にしてください。これらは、日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障害のある受検者

聴覚障害を持つ受検者は、通常のオーラル・テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。

オーラル・テスト：イニシャル グレード (新)

- A 検定員の弾く曲に合わせて拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせて、すぐに拍をうってください。
- B 二つのフレーズの後に続いて拍を打つこと。2 又は 3 拍子で、2 小節のフレーズが 2 題弾かれます。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍を、エコーのように、打ち返すこと。初めに 2 小節のカウントが与えられます。
- C 二つのフレーズの後に続いて歌うこと。長調、4/4 拍子、1 小節のフレーズ（主音～3 音の範囲で）が弾かれます。はじめに主和音と、でだしの音が弾かれ、2 小節のカウントが与えられます。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに、エコーのように、歌い返すこと。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する 1 つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱）②アーティキュレーション（スタッカート／レガート）についてです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード 1

- A 2 拍子、または 3 拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B 長調の限られた音域内の 3 音からなる短いフレーズが 3 題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。 各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の 2 小節のフレーズが 2 回弾かれます。2 回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する 2 つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション（スタッカート／レガート）についてです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード2

- A** 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B** 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート/レガート)、②テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード3

- A** 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B** 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート/レガート)、テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）②調性(長調/短調)に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード4

- A** 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調、または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと。出題は、ハ(C)、へ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード5

- A** 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題は、シャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード6

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください

オーラル・テスト：グレード7

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C1** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。

- C2** 上記 C1 の終止形における **2つの和音を答えること**。範囲はトニック(主和音－I)、サブドミナント(下屬和音－IV)、ドミナント(属和音－V)、ドミナント7th(属七の和音－V7)、およびサブミディアント(下中和音－VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、**2つの和音が続けて弾かれます**。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- C3** 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください**。出題は属調、下屬調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、**そのリズムを打つこと**。次にその曲が **2,3,4 或いは 6/8 のいずれの拍子であるかを答えてください**。

オーラル・テスト：グレード8

- A1** 三声のフレーズが2回弾かれますので、**最下声部を覚えて歌う(あるいは弾く)こと**。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- A2** 長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、**完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)に限られます**。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音－I)の基本形、第1,2転回形、スーパー tonic(上主和音－II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます
- A3** 上記の終止形における**3つの和音と転回形を答えてください**。出題は、トニック(主和音－I)の基本形、第1,2転回形、スーパー tonic(上主和音－II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。

- B** スコアを見て、上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** 2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を教えてください。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は属調、下屬調、平行調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについてディスカッションします。必要に応じて、検定員がヒントを与えることもあります。